

後援団体特別賞受賞作品

日本児童文芸家協会 会長賞

おなかのあかちゃん

兵庫県私立愛徳学園小学校

一年 久家 茉莉花

8月29日水よう日 はれ

きょうは、こくりつびよういんでおかあさまのおなかのあかちゃんをちようおんばでみる日です。ずっとまに、おかあさまがみせてもらったときは、

「すわって、あしをばたばたさせているのがみえるのよ。パンダちゃんみたいねえ。」

とっていました。

そのおはなしをきいているうちに、プールのこしかけキックをおもいだして、わたしもみたくてみたくてたまらなくなりました。

おかあさまは、ゆきむらせんせいにたのみました。そうしたらせんせいが、

「なつやすみのあいだにしてあげようね。」

とおっしゃってくださいました。

わたしは、ずっとうれしくて、はやくその日になつてほしいなあとおもいました。

それからまいにちおかあさまのおなかにみみをあてて、あかちゃんがどこにいるかと、きいています。わたしがきくと、しんぞうの音がドキドキとなっています。いつも、きこえるばしょがちがいます。おへその上のほうにいたり、下にいたり

みぎのほうにいたり、ひだりのほうにいたりします。

おかあさまが、

「まりかおねえちやま、ひこひこが、またくれんぼしてるから、さがして。」

というと、わたしは、おかあさまのおなかにみみをあててひこひこをさがします。わたしがくれんぼのおになつていゐるんです。

でもいまは、どんな子かわかりません。

ひこひこというのは、おばあちやまが、

「男の子だったら、なんとかひこという名まえにして。」

といったからです。わたしがおかあさまにそのことをいうと、

「いまは、ひこひこってよぼう。」

としました。それから、ひこひことよんであげることにしました。

おなかがときどきうごきます。わたしが、

「ひこひこ、うごいてごらん。おねえちやまがみていますよ。」

というと、ひこひこがへんじをするようにうごきます。わたしは、うれしくなつてまた、

「いいこだね。かわいいね。」

というたまうごきました。

おなかの中でもうれしいのがわかるのかなー。

こくりつびよういんのちようおんばは、モニタ

ーに、おなかの中がくろくうつります。

わたしは、はじめはよくわかりませんでした。

ゆきむらせんせいが、

「ここがあたまだよ。ここがしんぞうだよ。うごいているでしょ。」

とおはなしをしてくださいました。

あまりわからなかったけど、あとでしゃしんをみせていただくと、あたまが下になつて、上にあしがあつて、でんぐりがえりのうしろまわりみたでした。

ひこひこは、たぶんふゆやすみにうまれるとおもいます。

わたしは、ひこひこのおせわをいっぱいします。おうちのおてつだいもします。

ひこひこ、かわいくうまれてきてね。

わたしは、かみさまにまい日ひこひこのことをおいのりしています。

●選評●

めつたにできない経験をのがさずにとらえた作品です。

ある一日の経験を日記のようにまとめてあり、いきいきとした会話から、「おなかのあかちゃん」との共鳴、人間の誕生の喜びが伝わってきます。

また、「おなかのあかちゃん」に対する思いやりや期待が素直に書かれており、作者の心の温かさが感じられます。

後援団体特別賞受賞作品

全国小学校理科 研究協議会 会長賞

蚕の観察 —蚕ガとキアゲハの成長—

岐阜県柳津町立柳津小学校
6年 杉浦 理恵

蚕の観察(Ⅲ)
—蚕ガとキアゲハの成長—

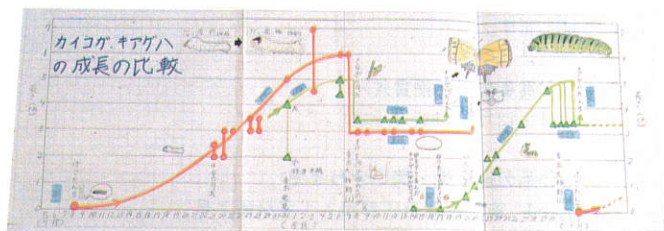
6年4組
杉浦 理恵

●研究の動機 私は4年生から蚕の研究を続けてきました。

(中略) 昨年の秋に、県庁前で、農業博があって、そこで、リンゴやカボチャなどの果物や、野菜を食べる(中略)蚕が展示されていたと聞き(中略)びっくりしました。

私がいつも育てているのは、桑の葉しか食べません。(中略)でも、他の葉は食べないことを、本当かどうか、調べてみることにしました。また、蚕に似ているキアゲハの幼虫がちょうど庭のバセリにくっついていたので、それもいっしょに観察することにしました。(中略)蚕は人間に育てられ、青虫は野生という、大きなちがひがあります。この1つのちがひから、たくさんのちがひへのつながりは、きっとあると思います。そのちがひもたくさん調べたいからです。

●まとめ (前略)幼虫のときは、蚕も青虫も似ているけれど、サナギになるところから、蚕とキアゲハは大きくちがってきます。(中略)人間の手で育つ蚕、自然の中で自分で生きていくキアゲハ。今まで気付かなかった、「いっしょうけんめい生きる」ということが、よく分かりました。



▲小学校4年生のときから3年間観察を続けてきた力作です。成長の様子から、桑の葉の食べ方、成虫になれる割合、キアゲハとの比較など、多面的によく研究されています。

全国中学校理科 教育研究会 会長賞

卓球 ラケット・ラバー の関係とその影響

東京都私立国学院久我山中学校
3年 長谷川 幸弘

●実験にあたって 私は小学校4年生から卓球というスポーツを約4年半続けてきました。その中で卓球はどんなに楽しく緻密で、そしてピュアなスポーツかということを肌で感じました。それを支えているのは、その人の技術もありますが、なんといっても多彩な用具にあると私は考えます。(中略)そこで自分のプレイをみつめ直す意味でも、ラケット、ラバーでさまざまな実験をやり、自分の知識を確認し、また新しい発見をしようと考え、実行したいと思います。

●最高のプレーをするためのラケット、ラバーの組み合わせは(抜粋) 攻撃型としてだったら、スピード、回転とも、かなりのものの単板(ラケット)と、はずみ、回転とも最高の裏ソフト(ラバー)がいいでしょう。(以下略)

●実験を終えて この実験を通して最も強く心に残ったことは、自分の知識にかなりの誤りがあったということです。(中略)ここでやった実験方法も自分で考えたものですが、どうしたら正しく結果をだせるかということで苦労しました。しかしかなりこの実験は自分にプラスになったと考えています。これからも、もっと理論的に卓球を考えていきたいと思っています。

▶卓球部員という立場にあつて、主体的に自分の研究に取り組んだ好例です。ラケット、ラバーの実験から攻撃型、守備型というまとめ方など、卓球部員ならではの発想が各所に見出されます。研究成果をもとにした、彼の活躍が楽しみです。



後援団体特別賞受賞作品

美育文化協会 会長賞

プールそうじ

岐阜県下呂町立竹原小学校
四年 和合 祐作

学年にふさわしい絵です。構図にもむだがありません。色の統一もできていてまとまっています。皆が協力してプールそうじをする姿は見る者の心を楽しませます。テーマ、画面ともにしっかりとおり、自分で感じた喜びや驚きが素直に表れている作品です。このほかにも夏休みの思い出や心に残ったことをテーマにした作品が圧倒的に多かったようですが、自分の感じた驚きやうれしさなどの心の動きを場所、時、友達や家族と結び付けて表すと、このように絵ができてきます。



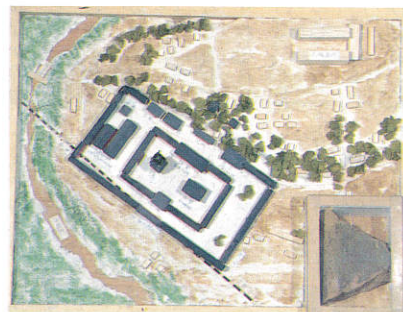
日本社会科教育学会 会長賞

海円院再建 茅ヶ崎に国分寺があった?

神奈川県茅ヶ崎市立梅田小学校
6年 木下 紘子

●研究のきっかけ

上正寺へ墓参りをした時、この寺が茅ヶ崎で一番古く、別の場所から引っこしてきたことを知りました。また昔この寺は海円院という名前だったこと。引っこしの理由は火事ですが、その原因が相模の国分寺とそっくりの言い伝えがあることもわかりました。私はこのことをもっと調べようと思いました。



▲小さなきっかけから、次々と調べを深め、資料を広く集め、人の話もよく聞き、それを整理してよくまとめられています。模型もすばらしい。

目次

1. そっくりの2つの伝説
(1)下寺尾の七堂伽藍 (2)尼の泣き水と海老名の大ケヤキ
2. 上正寺の調査
(1)上正寺の歴史と住職さんに質問 (2)117年前の地図を見る (3)上正寺とそのまわりの古いもの
3. 海円院の調査
(1)発掘調査の時の記録 (2)平野先生に聞いたこと (3)現地見学と瓦の発見! (4)礎石の調査 (5)海円院に関する伝説
4. 相模国分寺の調査
(1)国分寺の意味 (2)現地の見学 (3)温古館で先生に聞いたこと (4)「重大な事実」を教えてください
5. 大村先生にききにいく
6. 海円院再建
7. まとめと感想 【①そっくりな伝説のなどを調べていくうちに海円院はきっと国分寺だったんだと思えてきました。可能性としては少ないと教えられてきたけど、もし海円院が国分寺だったら同じような伝説が残っていてもおかしくないと思いました】

